



地産地消で 得られるもの

「地産地消」とは、地元で採れた産物を地元で消費するということ。

なぜ地産地消は良いのでしょうか。

そこには地産地消がもたらす5つの幸せがありました。



郷土愛を育むこと

地元産のおいしい農産物を消費することはふるさとへの愛着や誇りを育みます。

愛着

新鮮

旬の新鮮な物を食べること

収穫から消費されるまでの時間が短いため、農作物の鮮度が維持されたまま皆さんの元へ届きます。

安心

作り手の顔が見えること

作り手との距離が近いので、作り手がわかる安心感があります。

エコ

応援

流通にかかるエネルギーを削減

産地と消費地の距離が短く、輸送時に必要なエネルギーを節約できます。

地元産を買って、農家を応援！

地産地消を通じて、農業及び農村の振興に貢献することができます。

＼実はスゴイ！/ ながの特産品



りんご

収穫量&栽培面積
(平成27年 長野県)

第2位

長野県は青森県に続いて全国2位の産地です。日照時間が長く、昼夜の気温差が大きい気象条件を活かして高品質なりんごが生産されています。長野市や須坂市、飯綱町などの北信地域で生産が盛んです。主力の「ふじ」を中心に最近では信州生まれの「シナノスイート」「秋映」「シナノゴールド」などのりんごも知名度が上がり好評です。



ぶどう

収穫量&栽培面積
(平成27年 長野県)

第2位

長野県は山梨県に続いて全国2位の産地です。ぶどうはポリフェノール類など美容や健康にやさしい栄養成分が豊富で多くの方に好まれています。長野市では主力の「巨峰」や「シャインマスカット」の生産が盛んです。種が無く皮ごと食べることができる「ナガノパープル」は須坂市生まれです。



もも

収穫量&栽培面積
(平成27年 長野県)

第3位

山梨県、福島県に次いで全国3位の産地です。長野市南部地区を中心に県下各地で栽培され、全国的に有名な品種「川中島白桃」は長野市生まれです。バラ科の果樹で、ももの変種である「ネクタリン」の収穫量&栽培面積全国1位(平成25年 長野県)です。